

Immediate Press Release 2011.8.9

## 感じる服 考える服：東京ファッションの現在形 Feel and Think: A New Era of Tokyo Fashion

謹啓 盛夏の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は東京オペラシティ アートギャラリーの展覧会活動に対して、ご高配、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当館では、2011年10月18日〔火〕より12月25日〔日〕まで、「感じる服 考える服：東京ファッションの現在形」展を開催いたします。

21世紀に入り、ファッションの世界は大きく変化しました。日本においては、パリ、ニューヨーク、ミラノが発信するハイファッションはかつてのような求心力を失い、ストリートやファストファッションが強い影響力を持つとともに、リサイクルなどの環境問題への意識が高まっています。他方、ニューヨーク、ロンドン、ミュンヘンで、日本をテーマにしたファッション展が相次いで開催されるなど、日本のファッションは高い関心を集めています。

これまで、イッセイミヤケ、コムデギャルソン、ヨウジヤマモトを頂点とした見取り図のもとで日本のファッションを概観したり、あるいは、ロリータやゴスロリ、コミックやゲームの登場人物を真似たコスプレなどのストリートカルチャーを軸に、クールなワンダーランドとしての日本解釈が行われてしてきましたが、いずれも「古い枠組みや欧米中心のファッション観にすぎないのではないか」という疑問が日本の中から起こっています。

服には着る人の人生を変える力があります。日本には服飾の豊かな歴史があり、高い創造性を追求してきました。そうした伝統を踏まえつつ、今日のデザイナーには、従来の方法論を単に追従するのではない、新しい服づくりが求められています。とくに近年はビジネスやマーケティングの論理がクローズアップされ、クリエイティブであることの大切さが軽視されているようにも見えます。しかし、ファッションデザインの創造性は価格や機能性よりも、作り手であるデザイナーが着る人々と対話し、感動をもたらすことにほかなりません。流行のサイクルの中で消費されるだけではないファッションとは何か——彼らは、日頃からこうした問いに真正面から向き合いつつ、みずからのクリエイションを実践していると言えるのです。

本展覧会は、現状への問題意識を持ち、日本(東京)の足元を見つめ直し、新しい時代のリアリティを追求しつつ、ユニークなクリエイションを展開している10組のデザイナーの仕事を通じて、現在進行形の日本のファッションデザインの可能性を探るものです。オリジナルのテキスタイルを生かした服作り(ミナペルホネン/ミントデザインズ)、既成概念の見直し(アンリアレイジ/ケイスケカンダ) 新しい美意識の提案(まふ/ソマルタ)、多面的な活動(シアタープロダクツ、リトゥンアフターワーズ)、ストリートからの発信(h.NAOTO/サスクワッチファブリックス)など、その特徴はさまざまですが、その根底には、社会転換期の空気を呼吸し、ファッションデザインのありかたを前例にとらわれずにそれぞれの方法で模索する真摯な姿勢が窺えます。

みずから感じ、考えながら、新しいファッションデザインを目指す彼らの服づくりは、それぞれが「ファッションとは何か」という問いに対する多様な回答と言えるでしょう。そして、そこに示されるクリエイションの豊かな未来像はまた、私たちにとっても、ファッションの多様性や新しい魅力を感じ、考えるための最良の契機となるはずです。

つきましては、この「感じる服 考える服：東京ファッションの現在形」展を貴誌上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

### ■本リリースに関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】 堀・佐山 【広報担当】 吉田

**ARTGALLERY**  
TOKYO OPERA CITY

出品デザイナー／ブランド名(デザイナー名) アルファベット順 [全10ブランド]

1. アンリアレイジ／ANREALAGE (森永邦彦)
2. h. NAOTO (廣岡直人)
3. ケイスケカンダ／keisuke kanda (神田恵介)
4. まとふ／matohu (堀畑裕之・関口真希子)
5. ミナペルホネン／minä perhonen (皆川明)
6. ミントデザインズ／mint designs (勝井北斗・八木奈央)
7. サスクワッチファブリックス／SASQUATCHfabrix. (横山大介・荒木克記)
8. ソマルタ／SOMARTA (廣川玉枝)
9. シアタープロダクツ／THEATRE PRODUCTS (武内昭・中西妙佳・金森香)
10. リトウンアフターワーズ／writtenafterwards (山縣良和)

[東京展開催概要]

展覧会名: 感じる服 考える服:東京ファッションの現在形  
Feel and Think: A New Era of Tokyo Fashion

会期: 2011年10月18日[火] → 12月25日[日]

会場: 東京オペラシティ アートギャラリー

開館時間: 11:00-19:00 (金・土は20:00まで/最終入場は閉館の30分前まで)

\*諸事情により開館時間の変更および臨時休館の可能性がございます。最新情報はウェブサイトでご案内致します。

休館日: 月曜日

入場料: 一般 1,000(800)円/大・高生 800(600)円/中・小生 600(400)円

\*同時開催「収藏品展 039 Younger Generation (仮題)」「project N 47 上西エリカ」展の入場料を含みます。

\*収藏品展入場券 200円(各種割引無し)もあり。

\* ( )内は15名以上の団体料金。その他、閉館の1時間前より半額、65歳以上半額。土・日・祝日の中・小生無料。

\*障害者手帳をお持ちの方および付添1名は無料。割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

お問合せ: 03-5353-0756 ウェブサイト URL: <http://www.operacity.jp/ag/>

主催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団 / 文化学園大学 文化ファッション研究機構

協賛: 日本生命保険相互会社

協力: 相互物産株式会社

後援: 経済産業省 / 一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構

展示デザイン: 中村竜治

企画: 服飾文化共同研究拠点「現代日本ファッションデザインの研究」

\*本展は、文化学園大学(旧文化女子大学)・文化ファッション研究機構、服飾文化共同研究拠点「現代日本ファッションデザインの研究」(メンバー:高木陽子、成実弘至、西谷真理子、堀元彰)の研究成果の一部として開催するものです。

[神戸展のご案内]

本展覧会は神戸ファッション美術館に巡回します。

会期: 2012年1月14日[土]-4月1日[日] 水休

会場: 神戸ファッション美術館

主催: 神戸ファッション美術館/公益財団法人 東京オペラシティ文化財団/文化学園大学 文化ファッション研究機構

■次回展覧会のお知らせ「難波田史男展(仮題)」会期 2012年1月14日[土] → 3月25日[日]

内容未定となっていた、2012年1月14日[土]-3月25日[日]の期間の展覧会が「難波田史男展(仮題)」に決まりました。

繊細な線と生氣ある色彩による優れた作品の数々を残して32歳で逝った難波田史男(1941-74)。日本の抽象絵画のパイオニアである難波田龍起の次男として生まれた史男は、早くから才能を示し、短い生涯ながら強烈な個性を放つ作品で戦後美術にその名を刻むこととなりました。各地のコレクションから秀作を集め、久々の大規模な展示の準備が進行中です。ご期待ください。